

## 石西礁湖自然再生協議会普及啓発について過去の協議内容の整理

### 第 6 回石西礁湖自然再生協議会グループディスカッション（平成 19 年 12 月 15 日）

普及啓発の方法、各課題の普及啓発方法、啓発活動対象者などの意見の収集。

### 第 7 回石西礁湖自然再生協議会グループディスカッション（平成 20 年 3 月 22 日）

行動計画策定の骨子案紹介。

既に取り組みされている活動事例報告、他地域の事例紹介。

連絡体制の確立、ML の作成を決定。

### 第 8 回石西礁湖自然再生協議会グループディスカッション（平成 20 年 6 月 13 日）

骨子の見直し案作成、メーリングリスト作成の報告。

普及啓発のターゲットを「観光」と「地域コミュニティ」に分割し検討することを決定。

### 第 1 回普及啓発ワークショップ

「観光」と「地域コミュニティ」それぞれの意見を収集。

観光：ガイドラインや自主ルールの策定。

地域コミュニティ：自然教室等イベントの開催、地域に身近な問題から取り組むべきといった案が挙がる。

### 第 9 回石西礁湖自然再生協議会グループディスカッション（平成 20 年 10 月 24 日）

第 1 回ワークショップの取りまとめ、各課題優先順位の付け方の検討。

行動計画骨子案の見直しを行った。

### 第 2 回普及啓発ワークショップ（平成 21 年 1 月 16 日）

行動計画について対象者をさらに詳細に分類することを検討。

数名のコアメンバーによるタスクフォースの立ち上げを検討。

### 第 10 回石西礁湖自然再生協議会グループディスカッション（平成 21 年 1 月 30 日）

行動計画の基本的な考え方、具体的な取り組みについて検討。具体的な取り組みは「観光」と「地域コミュニティ」で分けずに考えると提案。

### 第 11 回石西礁湖自然再生協議会グループディスカッション（平成 21 年 6 月 26 日）

過去の議事の整理、普及啓発の進め方の確認。今後の普及啓発の具体化について。

普及啓発プログラム案の提出。

第 3 回ワークショップ（平成 22 年 3 月 28 日）

普及啓発プロジェクト 10 項目、「八重山のサンゴ礁を蘇らせるための十の行動」など具体案の提示、ロゴマークの検討。

第 4 回ワークショップ（平成 23 年 7 月 16 日）

第 3 回ワークショップで提案された普及啓発プロジェクト、コーラルウォッチプロジェクトについて説明と意見交換。

◇現在取り組まれている主な活動

○コーラルウォッチプロジェクト（代表：コーラルウォッチ実行委員 大堀氏等）

○島まるごと一斉調査～水平透明度モニタリング～

（代表：東京工業大学 灘岡教授、りんばな 内藤氏等）

○小学生サンゴ学習事業「わくわくサンゴ石垣島～サンゴ元気で島ハッピー～」

（代表：八重山漁協サンゴ養殖研究班 小林氏）

## 普及啓発について分野別取り組み内容案(第6回協議会ディスカッショングループより)

原因	認知・関心	理解	共感	行動	主な対象者
	サンゴ礁の自然が好きになる サンゴ礁の現状を知る	サンゴ礁の重要性を理解する。 問題の構造を理解する。 サンゴ礁の自然について理解する	サンゴ礁の自然を誇りを感じる サンゴ礁と自分のつながりを意識する サンゴ礁を守りたい気持ちになる。	自らどうすべきか考える 周りに働きかける 自分にできることから始める	
オニヒトデ	オニヒトデ大発生により 大きな影響が出ている。	本来は生態系の一部。水質悪化が オニヒトデを発生させていると見られている。		オニヒトデ駆除 オニヒトデ対策協議会 水質対策(水質悪化のシート作成)	漁業従事者、ダイビング業 者、 ダイバー、農業従事者、 畜産従事者
人間活動(開発)	開発によりサンゴ礁が失われてきた	持続可能な開発が必要	不要な開発は避ける 必要な開発は環境配慮を行う。	サンゴに優しい制作を行政に 働きかける	地域住民
人間活動(アンカー・フィンキック)	サンゴの踏みつけや不用意なアン カーもサンゴ礁衰退の要因の一つ。	気をつければ傷つけずに楽しむことができる。		サンゴに優しい観光にしよう！ エコツアーリズムをしよう、広めよう	観光客、ダイバー、シュノーケ リング、エコツアー等各業者
過度の捕獲、採取	過度の捕獲は水産資源減少の一因	持続可能な利用が重要	海は未来の世代のもの (次世代へ受け継いでいくもの)	持続可能に漁獲された海産物を購入 持続可能な漁業に関する認証制度の 普及(MSC)	漁業従事者、消費者
赤土流入、堆積	赤土はサンゴ礁生態系衰退の 一つの要因	赤土は適正な土地管理によって防ぐことができる。 新しいサンゴの漂着を疎外する	赤土で汚れた海を健全な海にしよう (青い海が好き？赤い海が好き？)	地域のみんなでグリーンベルトを作ろ う 沈砂地を適切に作り、流出を最小限に しよう	農業従事者、地域住民、消費 者、農業関係の学校
水質悪化・生活排水	澄んでいた海がいろいろな排水に よって汚れている	サンゴは汚れた海では生きられない 水質悪化はサンゴ群集の減少、劣化を引き起こし ている	海と川はつながっている 暮らし方を工夫することでサンゴを保 全することができる	下水を整備、接続しよう 環境に優しい洗剤を使おう、有機物排 水を減らそう	農業、畜産従事者、地域住 民、 主婦、飲食店
漂着ゴミ、廃油ボール、不法投棄ゴミ	ゴミや廃油ボールが海岸にたくさん 落ちている	ゴミは海岸の景観に悪影響 プラスチックゴミは分解されずに海を漂い続ける	海はゴミ捨て場ではない。捨てたゴミ は別の海岸を汚す。 海洋生物がゴミを飲み込み命を落とし ている	正しくゴミを処理しよう ゴミをたくさん出さない生活をしよう 海岸清掃に参加しよう	船舶乗組員、地域住民、学 校、 子ども、漁業関係者
高水温によるサンゴ白化	地球温暖化とサンゴ礁生態系には関 係がある	サンゴは高水温などのストレスによって共生してい る藻を失うと死に至る	人々の行動によってサンゴの未来は変 わる	電気を消して二酸化炭素の排出を減 少させよう	国民、地域住民
サンゴへの関心・理解	サンゴ礁というすばらしい自然がある 石西礁湖は世界的にも価値がある サンゴ礁は生物の宝庫であり、多く の観光客が訪れるが、現在劣化して いる。	サンゴ礁の成長は遅く、回復に時間がかかる 観光、水産業等の地域経済上重要な資源である サンゴは生き物、動物である サンゴ礁は海全体の0.3%しかない	地域本来の自然や文化を大切にしよう サンゴ礁のすばらしさや課題を多くの 人と分かち合おう	経済的な観点からもサンゴ礁を保全し よう 何ができるか考え、行動しよう	観光客、地域住民、学校、 子ども、観光業者、国民

## 普及啓発方法案(第6回自然再生協議会ディスカッショングループより)

ラベル広告(牛乳、泡盛、地ビール)	サンゴゲームの開発	物語作り
インターネットサイト(ワンクリック募金等)	写真展の開催	すきま広告(航空チケット、公共料金領収書等)
地元新聞へのリレーエッセーの連載	ダイエツトキャンペーン	サンゴ礁に優しい取り組みの認定プログラム
イメージポスター	キャラクターの開発	オリジナルグッズ(ストラップ、下敷き、かりゆしシャツ、カレンダー、タオル等)
計画的なポスター教材提供プログラム	赤土流出防止モデル地区	
おかし等のおみやげ	サンゴの歌と踊りの開発	

## 石西礁湖自然再生普及啓発プロジェクトについて

第3回、第4回ワークショップ（平成23年7月13日時点）提出資料

石西礁湖自然再生協議会普及啓発グループ  
提案プロジェクト一覧

No	名 称	概 要	補足・実施状況等
1	地魚を食べるプロジェクト-地産地消の推進-	さしみ屋での海産物購買を図り、海面利用者のサンゴ再生活動の参加を促す。	漁協の婦人部に協力いただきどこでどのような魚が買えるかマップ作成。
2	うなじゅらプロジェクト-海域への理解-	伝統文化等を通じ、サンゴ礁と人の関わり合いについて理解を深めてもらう。	漁業者の中で講話が上手な人から地名の由来等を説明いただく
3	サンゴを見たことのない子どもゼロ作戦	小学生を主な対象として、八重山の島外へ出る前の子ども達に、一度はサンゴを見る体験をさせ、サンゴ礁保全の理解を深めてもらう。	
4	ゲットウを植えてサンゴを救おう	八重山へのパッケージ観光にゲットウの記念植樹を加えてもらう。観光客には記念品を贈呈する。	カーボンオフセット観光。商工会で実施
5	アカジンを増やそうプロジェクト-放流事業-	生態的にサンゴ礁に深い関わりがあるアカジンの放流体験を小学生に実施させ、漁業への関心、サンゴ礁の現状について理解を深めさせる。	西海区水産研究所で放流事業実施。県水産海洋研究センターでシャコガイの放流事業実施。
6	海のエコマーク(ロゴマーク)認証プロジェクト	石西礁湖自然再生のオリジナルマークを作成し、再生活動を行うことにインセンティブや、さらなる広報効果をもたせる。	阿蘇草原再生で事例 八重山では美ら島農業推進協議会で昨年度社会実験を行なっている。
7	ダイバーがひっぱり保全活動プロジェクト-事業の推進-	ダイバーが既に自主的に取り組んでいるサンゴ保全活動(オニヒトデ駆除、サンゴ増殖活動等)を支援する。	竹富町ダイビング組合の活動支援(オニヒトデ駆除については基金を用いて実施)
8	島まるごと一斉調査-海につながる河川の健康度-	海につながる河川の水質(赤土・栄養塩等)について地元住民参加型調査を一斉実施し、攪乱要因の一つの現状を理解してもらう。	千川さん、灘岡先生が調査している全国水辺の一斉調査。
9	島まるごと一斉調査-サンゴのイキイキ度-	地元住民参加型でサンゴ礁の状態(赤土、SPSS、コーラルウォッチ、サンゴ被度等)を調査し、本来のサンゴ礁劣化状況を理解してもらう。	富野小のコーラルウォッチ等。専門家の支援を求められる。科学WGから支援できないか。
10	島まるごと一斉調査-浜辺の落とし物探し-	地元住民参加型の海岸漂着ゴミ清掃を一斉に行い、ゴミの漂着状況を実感してもらい、清掃活動継続の理解を深めてもらう。	IBCC等すでに海岸清掃を実施している団体が多数あり、連携の強化